

2016,3,3, 近江湖の辺の道ウォークとザゼンソウを訪ねて記

良いお天気に恵まれ、のんびりとした雰囲気ウォーキングを楽しみました。式内社 阿志都弥神社では、紅白の梅の花がきれいにさいていました。樹齢千数百年というスダジイの老樹に元気もらい、ザゼンソウ群生地に行きました。かわいいお花に出会い、あちこちでお写真を撮りました。今津浜では水鳥がのんびり遊泳していました。のんびり眺めながら、浜辺で昼食。静かななんと贅沢な時間でした。そして、琵琶湖岸に沿って新旭駅を目指しました。途中、ユリカモメがたくさんいて、のんびり遊泳。しばらくすると浜辺に上がって、のんびり過ごしているようで、仕草がとても可愛い・・・式内社 森神社でも樹齢 1200 年以上のタブノキに出会い超感動。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした

樹齢千数百年のスダジイ

式内社 阿志都弥神社



ザゼンソウ

桜花大明神とも言われる葦津姫「木花開耶姫」を祀り、学問の神様である菅原道真が祀られている行過天満宮を配祀しています

滋賀県指定自然記念物

名称：阿志都弥神社行過天満宮のスダジイ

この湖辺に二ツ石と言って大きな石が二つあり、沖合百メートルの所にも同じくらしい石が二つあった。これは、雨乞い用のもので、毎月 7 月 28 日に石を掃き清め雨乞いの行事が行われている

ザゼンソウは、花を咲かせる時に発熱する珍しい花です。発熱は肉穂花序(にくすいかじょ)という部分で起こり、その温度は 30℃ 近くまでたつきます。滋賀県自然環境保全条例の緑地環境保全地域に指定されています。



二ツ岩大明神



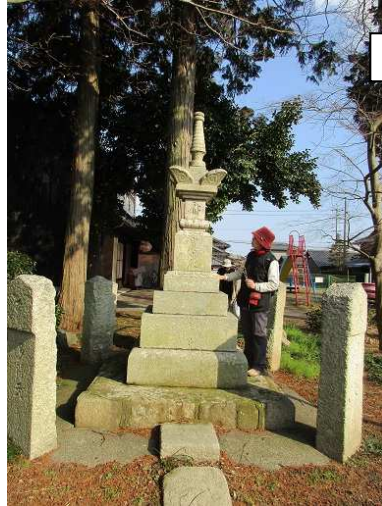
ハマダイコン



竹生島とユリカモメ



木津は、木津(こつ)とも言い、古くからの港でした。若狭方面からの物資がここで船積みされ湖上を大津・京都方面へ向かって運ばれました。木津の地名は、天平 19 年 (749) ごろの木簡の中に、近江国高島木津・・・と墨書きされているそうです。**御蔵屋敷跡**(おくらやしきあと): 木津は、江戸時代には、若狭小浜藩領であったため湖辺には小浜藩の蔵米屋敷があった所です。大蔵屋敷・または御蔵とも呼ばれています。かつては、157 間の石垣がありました。「天保 3 年(1832) 木津村絵図」には五棟の建物群と石垣が描かれています。また、明治 2 年(1869) 「木津村名細書記号」によると、北蔵・南蔵・蔵番屋・蔵奉行長屋・足軽衆長屋などがあったそうです。平成 3 年 11 月に、木津の常夜燈が建ちました。



阿弥陀寺にて